



寄附金による 公益活動に向けて

どうしたら寄附が
集まるかな？



そうだ！
こんなアイデア
はどうか

公益法人の活動を支えていくうえで、広く個人や企業からの寄附を募ることは重要です。公益法人がより寄附を集めやすくするため、法律で寄附者に対する税制上の優遇措置を設けられていますが、ここでは、寄附を集めたいけどノウハウがない、または、これから今以上に寄附集めに取り組んでいこうと考えている法人の皆様の参考となるよう、寄附集めに積極的に取り組んでいる法人の事例を紹介していきたいと思ひます。

☆公益法人の寄附税制についてはこちらをご覧ください
https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html

「寄附金付自動販売機」の設置



公益社団法人 被害者サポートセンターあいち

公益社団法人被害者サポートセンターあいちでは、平成25年4月より愛知県内の企業の協力を得て、犯罪被害者支援のための寄附金付自動販売機を設置し、広く一般からの寄附を募っています。

飲料を1本買うごとに2円寄附される仕組みで、現在愛知県内に4台設置されており、当面は50台、ゆくゆくは300台を目標に、設置の拡大を目指していくということです。

設置した自動販売機は法人の資金集めの手段としてだけでなく、法人の認知度を上げるための広報媒体にもなっています。

企業が事務所を間借りしているために自動販売機を設置できるスペースがなく、なかなか設置が進まないこともありましたが、実際に設置した企業からは、自動販売機を設置したことで、職員の社会貢献に対する意識が高まったという声が聞かれたということです。

(文責：公益認定等委員会事務局)



■自動販売機を設置した企業に対して法人から感謝状を送る様子

★募集！

公益認定等委員会だよりでは、寄附集めについて積極的に取り組んでいる法人を紹介してまいります。貴法人の創意に基づく取組を紹介してみませんか？是非ご応募ください。

<問い合わせ先>

(TEL) 03-5403-9533 (メール) koeki-info@cao.go.jp

どうしたら寄附が
集まるかな？

寄附金による 公益活動に向けて

そうだ！
こんなアイデア
はどうか

今回は、寄附者の気持ちに寄り添うことを大切に、寄附集めに取り組む法人を紹介します。

公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、戦争や貧困に苦しむアジア地域や国内の被災地の人々に向けて教育、文化的な支援を行う法人で、その活動費用の多くを寄附で賄っています。継続的な運営を行うため、「収入のうち補助金に頼る割合を3割以下にする」という方針のもと、お金だけでなく物による寄附など、**約40種類の寄附メニュー**を用意し、広く支援を受けることができるよう取り組んでいます。

●寄附者の気持ちに寄り添った寄附集め

シャンティ国際ボランティア会が寄附集めに際して大切にしていることは、「**寄附者の立場に立つこと**」です。

例えば、不要になった本を中古書店が買い取り、その買取金を寄附にあてる「リサイクル・ブック・エイド」という手法では、お金で寄附することに慣れていない人でも、「捨てるはずだったものが人の役に立つなら…」と気軽な気持ちで寄附をすることができます。

また、一人一人の寄附者がこれまでどのような形で法人を支えてくれているかをきちんと把握し、その思いに応えるよう、直筆のお礼状にメッセージを添えることも、寄附者にきめ細かな感謝の想いを伝えることにつながります。

このような丁寧な寄り添いが、新規の寄附者の開拓や継続的な支援につながっていきます。

●寄附者の「我がこと」感を大切に！

それから、寄附者が「お金を出しておしまい」ではなく、**寄附を通じて法人の活動を「我がこと」として捉えることができるよう**様々な工夫をしています。

例えば、クラウドファンディングサービス(※)を通じて、陸前高田市の図書館に本を揃えるための資

☆公益法人の寄附税制についてはこちらを御覧ください
https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html

▼陸前高田市の図書館に
本が並べられる様子



▲仮設住宅を中心に本を積んだ車で巡回する移動図書館活動の様子

金を募った際は、寄附者が「自分の寄附が人の役に立っている」ということを身近に感じられるよう、毎日ブログを通じて図書館に本が集まっていくまでの様子を伝えていきました。

また、1万円以上の寄附者に対しては、希望の本を指定することができるという特典により、単にお金を送るのではなく、**自分の好きな本を通じて寄附者が陸前高田市の人たちに「思い」を伝えることができる仕組み**を作りました。

プロジェクトの名称「陸前高田市の空っぽの図書室を本でいっぱいにしよう」にも、活動内容が分かりやすく、タイトル自体がユーザーに波及しやすいという創意が凝らされています。

こうした工夫の結果、800人以上の人たちから約800万円の寄附を集め、寄附者の思いが込められたたくさん本を図書館に並べることができました。

★「単なる資金集め」と思われがちな寄附を、寄附者の気持ちに寄り添って、いかに寄附者が「我がこと」として取り組むようにできるようにするかが、広く寄附を集める秘訣のようです。「ファンドレイジング」は「friend」レイジング」あるいは、いかに法人のファンを増やすという意味で「fan」度レイジング」という言葉が印象的でした。また、**各職員のプロジェクトや寄附集めの進捗状況を「見える化」**することで、法人全体が協力し、活動原資を集める意識向上につながっているように感じました。

(文責：公益認定等委員会事務局)

★募集！

公益認定等委員会だよりでは、寄附集めについて積極的に取り組んでいる法人を紹介してまいります。貴法人の創意に基づく取組を紹介してみませんか？是非ご応募ください。

<問い合わせ先> (TEL) 03-5403-9533 (メール) koeki-info@cao.go.jp

※不特定多数の人がインターネット経由で寄附をできるような仕組みのこと

どうしたら寄附が
集まるかな？



そうだ!
こんなアイデア
はどうかな

寄附金による 公益活動に向けて



公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパンは、世界70カ国以上の途上国や紛争地域において特に「女性や女子」に焦点をあて、自立支援を行う国際協力NGOです。

会員制度、プロジェクトごとの寄附、毎月1,000円から気軽に行える定額寄附、物品での寄附等、多様な寄附受入制度を用意するとともに、オンライン決済を可能にして寄附をしやすい仕組み作りに取り組んでいます。

★公益法人の寄附税制についてはこちらをご覧ください
https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html

■世界で起こっている問題を身近に感じてもらうために...

ケア・インターナショナル ジャパンが今、力を入れて取り組んでいるのが歩く国際協力「Walk in her Shoes」というキャンペーンです。途上国の女性や子どもたちが日常生活に必要な水を手に入れるために、1日約8,000歩(約6km)歩かなくてはならず、そうした負担が、彼ら彼女らから教育や生計向上の機会を奪っているという現状を、実際に同じ距離を歩いてみることを通じて身近な問題として考えてもらうことが狙いで、このキャンペーンの参加費が、途上国の人々の自立支援に充てられます。参加者はWEBサイトに1日の歩数を報告しあい、約3ヶ月のキャンペーン期間中に参加者全員で5,000万歩(20人の子どもたちが1年に歩く歩数)歩くことを目指します。

こうしたイベントは、言葉で説明してもぴんとこない途上国の現状を、実際に自分の体を動かすことで身近な問題として感じてもらうきっかけとなるとともに、職場の仲間や友人と一緒に「健康のためにもなるし...」と気軽な気持ちで参加してもらうことで、これまで寄附をしたことのないような新規の寄附者の獲得の手段としても大きな意味を持ちます。実際に新規寄附者の72%はこうしたイベントをきっかけに寄附をしているとのこと。

■「国際女性デー」に開催された
チャリティーウォーク



■ボランティアスタッフによるファンドレイジング

また、ケア・インターナショナル ジャパンでは、ファンドレイジング活動をボランティアチームが企画実践するという先駆的な取組を行っています。2011年9月から始められたこの取組では、半年間を1タームとし、7~8名のメンバーからなるチームが「最低5万円を集める」という目標のもと、資金集めのためのイベントを一から企画、運営します。

この取組の一環としてこれまで、ヨガ、ウォーキングなどのスポーツイベントやコンサート、写真展等、様々な企画が行われ、チームは皆目標金額の5万円を達成し、第6期をもって合計100万円以上の資金を集めてきました。

勿論、何もかも完全にボランティアスタッフに任せきりにするというわけではなく、ミーティングやイベントには必ず職員が立ち会い、必要な場面ではアドバイスをを行います。ただし、基本的に内容の部分はボランティアスタッフのアイデアを尊重し、何かの指示を出すことはありません。

もともと、「国際協力に携わりたい」「人の役に立ちたい」という強い思いをもって集まったボランティアスタッフを、単なる「事務作業のお手伝いさん」ではなく、「コアな支援者」ととらえ、その強い思いを活かす形でファンドレイジングに携わらせるこの取組は、「少ない職員でいかに資金集めに取り組むか」という課題を抱える多くの法人にとって、大いに参考となる事例と言えるでしょう。

(文責：公益認定等委員会事務局)

★募集!

公益認定等委員会だよりでは、寄附集めについて積極的に取り組んでいる法人を紹介してまいります。貴法人の創意に基づく取組を紹介してみませんか?是非ご応募ください。

<問い合わせ先> (TEL) 03-5403-9524 (メール) koeki-info@cao.go.jp